

「憲法第9条と平和」

神戸市垂水区 古巻諄也

僕のいる日本は平和です。生まれた時から平和で、そして平和なことが当たり前の僕は、1つの本に出会いました。その本は、「ぼくは13歳職業、兵士」という本です。アフリカの内戦で戦っていた、僕と同じくらいの少年の話です。彼は小さい頃、ゆうかいされ、地獄のような訓練をして、親や親せきをおそって殺したり、手足を切ったりしたそうです。生きるために愛する人達を殺さなければならなかった彼の目は、どこか遠くを見ているようで、人形のような顔でした。精神をボロボロにして道具のように子供の兵士を作っていると知った時、怖くてふるえが止まりませんでした。そして、人々を苦しめるだけの戦争に対して怒りがわいてきました。日本もかつて戦争をしていました。日本が始めた戦争なのに、どんな人の話も、つらくて悲しい話ばかりです。ひさんで人の人権がなくなり人が人の心を持ってなくなるのが戦争だと僕は思っています。戦争は、どんな事があってもしてはいけない事だと思います。

日本には、憲法第9条があるから軍を持っていません。だから、戦いたくても戦えないので、戦争はおこらないのです。昔の日本や現在の世界の多くの国は軍を持って、トラブルを戦争、国力で勝利して解決しているけれど、本当に、それが解決になるのでしょうか、力で負けた国の人々は、負けたりしょうがないと納得するのか、僕は兄弟を殺されて仕方がないなんて思わないと思う。源氏と平氏の戦いであるように、戦争を終りにするには、相手を1人残さずほろぼさないとずっと子孫たちがたえるまでくり返さないと終わらないと思う。力によって得た勝利は、やっぱり、力によって、うばわれるものだと思う。源平の時代から、ずっと戦争をくり返してきたけれど、今は、軍隊がない国として、戦争する事がない。僕は、憎しみが憎しみを生むような戦争の輪の中から飛び出した、今の日本をほこりに思います。

そして、世界にさきがけて、国や人々のトラブルを、話し合いで解決していく、先心国（※先心国＝心が発展している国のこと）に発展していくと僕は思います。

国と国とのトラブルは、これからも起きると思います。しかしそのたびに戦争をやって多くの人々が亡くなり、環境だって汚染されて、未来の地球の生命もつきてしまいます。日本は小さくて資源が無い国だから、外国からの輸入で人々は生きていけているのです。もし輸入をストップされると、生活用品から食糧まですべてなくなって、人々は死んでしまうでしょう。だからこそ、日本は、いつも外国とは仲良しでなくてはいけない、そしてもし戦争になったら太平洋戦争の時みたいに武器も作れなくて、竹やりで戦わなくてはいけない戦争ので

きない国なんだと思う。

僕は、憲法第9条が日本の武器なんだと思う。なぜなら、武装している国をおそいたくても、世界の悪者になるからおそえないと思うからです。そして、軍を持たない国だからこそ信用され、外国とも仲良くなれるのだと思う。もし、日本が軍を持ってしまったら、過去の戦争への憎しみへの輪の中にまた入ってしまい戦争という地獄の未来が待っていると思うのです。

平和で豊かな日本の人々を守っていくのは、軍隊ではなく、憲法第9条の平和への願いだと僕は思います。そして、どんどん小型化されている武器で女や子供でも兵士にさせぎせいになる。戦争をしているアフリカの人々は、一番得をしているのは、自分の血を流さない武器を作っている国だと言っている。もし日本が軍隊を持ってしまったら、戦争になり人々は苦しみ、そして資源のない日本は武器を買って金がなくなりほろんでしまう。一番得をするのは、武器を作っている大国だけなんだと思う。

大きな国でも小さな国でも国は1人の人間の集まりだと思う。その1人1人の幸せになる権利を守ってこそ、法治国家なんだと思う。僕は、どんな国の子供もみんな幸せになる権利を持っていると思う。

僕は、資源のない小さな国は、軍隊を持っていないからこそ、平和なのです。僕は、世界の全ての国が軍隊を持たず、使う必要のない武器も作らず、どんな子供でも、家族で幸せに暮らせるようになってほしいです。そして、あらためて、憲法第9条を考えて、世界に伝え、平和な地球を作っていきたいと思います。